

第三世代携帯電話“ FOMA D900 i ”

福井伸一* 竹本 誠*
徳田 勉* 樺沢昭史*
小島景子*

Third Generation Mobile Phone“ FOMA D900 i ”

Shinichi Fukui, Tsutomu Tokuda, Keiko Kojima, Makoto Takemoto, Akifumi Kabasawa

要 旨

国内における携帯電話市場は、第二世代通信方式のPDC (Personal Digital Cellular)から第三世代通信方式のW - CDMA(Wideband - Code Division Multiple Access)への移行過渡期にある。W - CDMAは各国の標準化機関が参画し世界標準仕様としてリリースされた方式であり、ドコモは2001年10月からこの方式によるFOMA^(注1)の商用サービスを世界に先駆けて開始し、2003年 8 月に純増数でPDCを逆転し、2004年に入って急激な立ち上がりを見せている。

(注1) FOMAは、(株)NTTドコモの登録商標である。

このような背景の中で、三菱電機では、マルチメディア端末“ FOMA D900 i ”を開発し、2004年 6 月に市場に投入した。

主な特長は次のとおりである。

- (1) 動画は映画と同じフレームレート(24fps)での撮影に対応(“ 超なめらか ”モード時)
- (2) 連続通話時間170分、連続待受時間(静止時)550時間(900シリーズ最長)
- (3) ビデオ出力(National Television System Committee : NTSC)対応



FOMA D900i

FOMA D900 i は、900シリーズ最長の連続通話時間、連続待受時間を誇る。ムーバDで好評の“ スピンアイ ”を踏襲しつつ、インスピレーションウィンドウ周りの意匠パーツにダイヤモンドやスピカットを施したアルミ素材を使用し、FOMAとして的高级感を表現している。